

30. 西海橋付近の地質

地域	西海橋付近
交通	西肥・県営バス 西海橋東口下車
地形図	川棚 (1/50,000, 1/25,000)

図1は西海橋付近の地質図である。西海橋東口^{ぐち}バス停（針尾島側）で下車し約200m程佐世保よりに進むと①の段丘れき層の切り割りが見える。れき種は、複輝石安山岩を主とし、玄武岩、チャート、石英、砂岩、結晶片岩等のれきからなり、大きさはハンドボール大からにぎりこぶし大のものが多く、マトリックスは少量の砂、小豆大れきからなっている。風化が進んでいるために露頭は赤茶けており、安山岩や玄武岩のれきは完全にくされた状態になっている。この段丘れき層は西彼杵半島の北部にかなり広く分布し、石英れきを多く含む珪石鉱床のひとつのタイプとして知られている。

再び西海橋の方へ戻ると、西海橋の管理事務所、警察所の山の切り割りで②の露頭がある。この切り割りのほとんどはコンクリートをかぶせられているが、一部に板状節理のよく発達した、ち密な岩石が見える。この岩石はこのあたり一帯を広くおおい、西海橋西側（針尾島側）の展望台から西海橋針尾島側橋脚、水族館、および明星の鼻へと広く分布している。板状節理がよく発達しているのが特徴で、真黒く一見玄武岩のような顔つきをしている。風化すると灰白色を呈する。この岩石は古銅輝石安山岩とよばれ、非常にガラス質な岩石である。

明星の鼻では、この古銅輝石安山岩の一部にサヌカイトが脈状に産出しているところを見ることができる。真黒くてかたく、叩けば金属性の音を発する。古銅輝石安山岩よりもさらにガラス質で、割

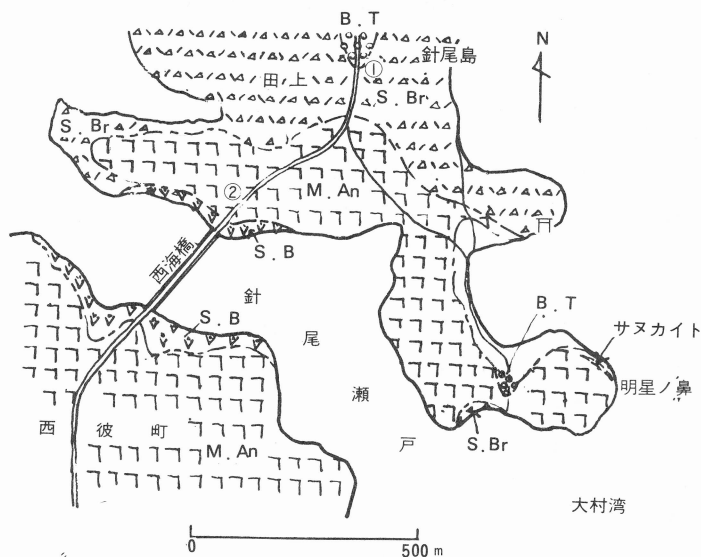


図1 西海橋付近の地質図

れ口は垂貝殻状の断口を示す。^{だんこう}

この古銅輝石安山岩の下位には西海凝灰角れき岩があり、西海橋ビューロッジの南東の海岸で両者の不整合が見られる。西海凝灰角れき岩は西彼杵半島北東部を広くおおっており、針尾島をへて川棚、彼杵までその分布が追跡される。複輝石安山岩を主とし角せん石複輝石安山岩も含まれる。肉眼的には斜長石の短冊状の斑晶が白く浮き上って見えるのが特徴である。顕微鏡下では明瞭な斑状組織をなし、斑晶としては斜長石、普通輝石、しそ輝石が存在し、石基として、ガラスと小さな斜長石と輝石の結晶が見られる。西海橋西側展望台（針尾島側）の下からその北方の名倉にかけてその分布が見られる。

西海凝灰角れき岩は西彼杵半島北部に分布する面高れき岩を不整合におおっており、西海凝灰角れき岩中に面高れき岩層由来と思わ

地層面	記号	模式地
葉山玄武岩類 30M以上		針尾島葉山
別頭段丘れき層20M		西海橋東口
東免砂れき層15M		針尾島東免
明星ノ鼻安山岩 / 40M		明星ノ鼻
瀬川玄武岩類 50~60M		西海町瀬川
西海凝灰角れき岩 50~60M		西海町瀬川 針尾島無線塔
名倉玄武岩 30~40M		針尾島名倉
面高れき岩 5~10M		西海町川内
西彼杵層群		西彼杵半島小迎
結晶片岩類		西海町皆割石

図2 西海橋付近の地質柱状図

た玄武岩が見られ、その上部には板状節理のよく発達した、ガラス質な安山岩があり、広く西海町杉崎あたりをおおっている。野外で両者の直接の関係をみることは難しい。

山口勝はこれを針尾瀬戸溶岩と名づけ、かんらん石輝石玄武岩から、複輝石安山岩ないし古銅輝石安山岩へと岩相変化をする玄武岩—安山岩質溶岩としている。これらの溶岩流の節理の方向を詳細に調べたら、おもしろい事実が解明されるのではないかと思っている。

(阪口和則)

れるチャート、結晶片岩、砂岩、石英などの円れきが多量に含まれている。両者のはっきりした不整合面は現在まで確認していないが、西海町川内の自動車整備工場又は神社付近では漸移しているように見える。当地域では面高れき岩層の分布は見られない。

西海橋の北、名倉では、西海凝灰角れき岩の下位に結晶質の玄武岩があり、北西方向に広がって分布している。

当地域では分布が見られないが、付近には第三系の西彼杵層群の砂岩、泥岩、れき岩などが分布しさらにその下位には西彼杵半島の主要な岩石である、結晶片岩類が見える。

西海橋の西彼杵半島側の橋脚では柱状節理のよく発達した